



広島中央トピックス



作業機導入し安定供給へ 豊栄育苗センターのハウス新装



▲新しくした育苗ハウス

JAがリニューアル工事を進めていた豊栄育苗センターが完成しました。育苗ハウスを旧ハウスより拡張したことで作業効率を上げ、品質向上につなげます。同センターは1974年に建設。老朽化した育苗ハウス45棟を解体し、同じ敷地内に26棟を新築しました。育苗ハウスは、間口7.2m、全長最大55mに拡張。フォークリフトで作業できる高さにし、通路も広げて移動しやすくしました。苗箱並べ機も導入して作業を省力化しています。



▲新装した育苗ハウス内に苗を並べる職員

豊栄アグリセンターの高光雄志センター長は「作業を効率化させ、品質を高めることで生産者に安定供給していきたい」と意欲を見せました。

4月4日に新育苗ハウスを初めて利用し、育苗箱のラックを職員がフォークリフトで運び、苗箱並べ機でハウス内に並べました。

間がかかり、苗箱を運ぶ作業が重労働のため、高齢化や後継者不足が進む管内で育苗センターへの注文が増えています。同センターは、豊栄町を中心に管内他地域へ供給する苗、約2万2000枚を生産しています。



1級農機サービス士認定

広島中央農機センター・豊栄連絡所の有廣真斗さんが、令和5年度JAGグループ農業機械検定1級に合格し、1級農機サービス士に認定されました。

同検定は2011年から実施されています。令和5年度は全国から51名が受験し、学科試験と実技試験の両方で合格基準に達した8人が認定されました。今回の合格を含め全国で89人が認定を受け、広島県内では3人目、JAひろしまでは初の認定です。有廣さんは、国家資格の農業機械整備(農業機械整備作業)1級技術検定にも合格しました。



▲1級農機サービス士に認定された有廣さん

広島中央農機センターは、農機具のアフターサービス向上を図るべく、職員の専門知識や技能の習得に取り組んでいます。有廣さんは「機械の点検や修理に迅速に対応することで、組合員の期待に応えたい」と話します。



想いをひとつに かなえよう 女性部通常総会



▲食品ロスについて説明する青山さん

女性部広島中央地区本部は4月10日、JA高屋支店で令和6年度通常総会を開き、管内9ブロック23支部の代表ら29人が出席しました。今年度は、食と農を基軸とした活動を基本に、地産地消、食農教育、環境保全、健康管理に重点を置いて、地域に密着した組織活動を展開することを申し合わせました。役員改選では、新部長に西条ブロックの渡邊美恵さんを、副部長に向陽ブロックの池野芳子さんと高屋ブロックの藤井悦子さんを選任しました。

総会後は、環境カウンセラーの青山範子さんが「知って得する!?食品ロスの話について」私達にできること」と題し、講演しました。



水稲

令和6年は春先から比較的温暖な気候が続いているため、生育は概ね順調に推移しています。しかしながら、田ごしらえの時期に雨が多かったため、荒起こしができなかつたり、土が十分乾いていないのに耕したため土を練ったようになったところも多かったようです。

田は冬から春までは土に空気を含ませ、稲わらを還元するために乾田管理が望ましいですが、今年はそれができない年となりました。耕起が十分でない水田で起こる障害としては「赤枯れ症」があります。6月からの管理では中干しを実施することで稲の根を健

全に保つようにしましょう。
また、ガス沸きにより早めに落水しなければならなかった田では除草剤の効果が切れている可能性もありますので、後発雑草を繁殖させないよう後期除草剤の使用も併せて考えましょう。

中干しの効果と程度

中干しにより今まで還元状態にあった水田の土中に空気を入れ、根の健全化をはかります。

中干しを始める時期は、茎数を数えることで判断します。目標茎数の8割確保できていれば始め、2週間程度継続します。

◆中干しの効果は

- ① 田面を固くすることで収穫期の落水を適期に行なうことができる
- ② 土中を乾かすことで窒素分が發現、追肥と同様の効果が得られる。
- ③ 根腐れを防止することで今後の生育が良好になる。

などあげられます。

最近の中干しの程度をみると強すぎる傾向にあります。土壌条件によりですが、田面が軽くひび割

れる程度とし、表土が白く乾いているようなら強すぎです。

中干しを行なうとこれまで長期にわたって効果のあった一発除草剤の効果は切れます。最近では、後発のノビエが稲の生育後半に一気に発現するのをよく目にします。対策を怠ると年々発生数が多くなり、ついにはノビエだらけで大幅な減収が続くことになり。対策を行ないましょう。

◆ノビエに対する農業と使用方法

「トドM F1キ口粒剤」
移植後14日ノビエ5葉期まで、但し収穫50日前まで

◆秋ウンカ(トビイロウンカ)

令和2年と3年は秋ウンカにより大幅な減収となりました。ここ2年は卓効である「防人」の普及

により減収の田は見られませんでした。秋ウンカが最初に飛来してくるのは6月です。このウンカは日本では越冬できないため、東南アジアから仮死状態になってジェット気流で運ばれてきたものが繁殖する実に不思議な生態を持つています。

繁殖世代を繰り返すことで爆発的に生体数が増え、過去にあったような著しい被害となります。広島県などが発表する病害虫情報に注視しましょう。

◆いもち病

今年春先から田が乾く間もなほいほど雨が降りました。いもち病は葉が濡れていると多発するので、このままの気候が続くのなら要注意です。観察していもち病の病斑があるところは必ず防除してください。

◆いもち病に対する農業と使用方法

「ブラシンフロアブル」
1000倍/10a
収穫7日前まで

※農業の使用については必ず使用前にラベルを確認してください。

野菜

夏野菜の管理

夏野菜の定植も終わり、今月からは整枝や誘因などの管理が中心になります。今年雨が多いものの気温が高めに推移したため、夏野菜の生育は旺盛気味だと思えます。枝葉が茂りすぎると病害虫の発生要因となるので、混み合う枝は早めに取り除くと傷口が小さくなるので株を痛めなくて済みます。

また、夏野菜の病害のほとんどが根腐れなど土の過湿に由来するものです。排水対策は万全にしておきましょう。

◆ピーマンの管理について

ピーマンは乾燥・過湿ともに嫌うとてもデリケートな野菜です。葉がピンと立っているようなら問題ありませんが、しなだれているようなら土の湿り具合を確認し、水やりの間隔を加減してください。

また、枝がVの字に分かれなが

ら成長するので内側に向かって混んでくる枝を取り除くことで結果数を制限し、元気のよい株を保ち続けることができます。ピーマンは伸びた枝元をひねるとポキッと簡単に折れるので気づいたときにこまめに行ないましょう。

◆ナスの管理について

昔から「親の意見とナスの花に千に一つも無駄はない」と言われてきたほど、開花した花のほとんどに実が付きまします。したがって、ナスの管理の基本は樹勢を衰えさせないことです。土壌水分は湿潤に保ち、肥料は切れないように細かく追肥を与えます。

どの果菜類でも同じですが、樹勢を回復させるために一番効果が高いのはこまめに収穫することです。植物は花から果実、中の種子が充実するまでに最も株の養分を消費するので、特に樹勢が弱ってきたらとにかく早めに収穫しましょう。

せつかく苗から育てたならできるだけ長く楽しみたいものです。樹勢は枝が垂れ下がると弱くなり、逆に立勢なら強くなります。

枝先が下がらないように支柱で支えましょう。取り遅れて果実が長くぶら下がっていると枝が下がるので樹勢が弱くなる要因になります。夏の果菜類はとにかく早めに収穫することが大切です。

◆カボチャなどウリ科植物について

最近品種改良によりカボチャも大変美味しくなっています。広島中央地域では「イーティ」や「栗五郎」など栗味系のカボチャを生産者におすすめています。糖度が高く、ホクツとした食感のため、お菓子作りにも活躍しているようです。

◆ウリ科植物の病害虫

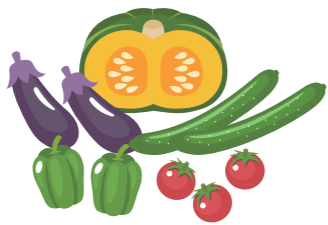
ウリハムシ

成虫はオレンジ色の甲虫で、幼虫は根を成虫は葉を食害します。活発に飛び交うため成虫が多発すると手の施しようがないほど被害が大きくなります。小規模ならネットなどで被覆するとよいですが規模が大きくなると「モスピラン顆粒水溶剤」などで防除する必要があります。

◆うどんこ病

主に生育期中期から後期にかけて白い粉をまぶしたように病気が蔓延し、激発した場合、葉が一気に枯れてしまったため収穫ができなくなります。うどんこ病の感染はもともと早く、樹勢の衰えとともに症状が現れます。したがって、症状が出たときはすでに手遅れで薬剤の効果は期待できません。予防薬として「ダコニール1000」を6月下旬に散布しましょう。

※散布前に必ずラベルを確認してください。



昨年の夏は暑い日が続きました。日焼け果を防止するため果実を新聞紙や刈草などでかぶせるとよいでしょう。また、果実を直接土に接しないように卵のパックなどを敷くとよいでしょう。

東広島市による「地域グループ営農」団体への支援制度のお知らせ

【対象】 概ね集落の3戸以上かつ概ね3ha以上の集積を行ない、共同利用、共同活動、地域農業の継続に取り組む団体で、JAひろしまが認定するグループ

【認定に関する問い合わせ先】 JAひろしま 広島中央地域営農経済センター Tel(082)423-5913

【申請方法】 申請書（東広島市役所農林水産課に設置、市ホームページからもダウンロード可）に必要書類を添付して提出。 ※必ず事業実施前に申請してください。

事業	内容	補助金額	締切
地域グループ営農支援事業	共同利用する農業用機械などを購入するための経費の一部を補助します。	対象経費の2分の1 (上限200万円)	6月28日(金)
農地保全・景観形成推進事業	農地等の畦畔・法面に植栽するための経費の一部を補助します。	対象経費の3分の2 (上限90万円)	随時
有害鳥獣防護さく設置事業	有害鳥獣による農林産物の被害を最小限に抑えるため、防護さくを設置する経費の一部を補助します。	補助対象経費の3分の2 (上限25万円)	随時
地力増進支援事業	堆肥投入に係る経費の一部を補助します。	堆肥購入費の1/2以内1t 当たり3,500円が上限 (上限額50万円)	随時

※農地保全・景観形成推進事業及び有害鳥獣防護さく設置事業は、地域グループ営農団体以外も対象になります。ただし、補助要件が異なる場合があります。

東広島市による 新規就農者初期投資補助制度のお知らせ

【内容】

新たに農業に取り組む人が荒れている農地をよみがえらせるため、機械をリースしたり作業を委託したりする費用を補助します。

【支援対象】

今年度中に初めて農地を所有する人、または初めて農地を借り受ける人。

【補助金額】

補助対象経費に相当する額または5万円のいずれか低い額。ただし、人口減少地域においては上限10万円。

【申込】

申請書（市ホームページからダウンロード）と添付書類を提出



申込・問い合わせ 東広島市役所 農林水産課 Tel (082)420-0939

東広島市
園芸センターより

短期農作業体験のご紹介

東広島市園芸センターで農作業を手伝いながら、自分にとっての農業を見つけてみませんか。自分に合った作物は何だろう。自分が管理できる範囲はどれくらいだろう。自分に合った栽培方法や道具の使い方が発見できるかもしれません。

- ◎1時間から体験可能！
- ◎定期的な体験も可能！
- ◎職員が丁寧に説明します！



申込・問い合わせ 東広島市園芸センター Tel (082)433-4411